

# 健康診断をしよう

## A. 自宅での健康診断

体重は出来れば毎朝、最低でも週1回は測りましょう。

- 鳥は病気を隠しますが、体重をごまかすことはできません。鳥を買うなら体重測定は必須です。
- 体重測定法は鳥を入れた小さなケースごとデジタルキッチンスケールに乗せ、メモリをゼロに合わせて鳥を持ち上げるとマイナス表示で体重が表示されます。
- 急激に増えたり減ったりしたら獣医さんに診てもらいましょう。

週に1回、健康診断の日を設けて全身を触りましょう。

### (1) 胸筋を触ろう。

○鳥は胸筋を触ると簡易的に全身状態を評価できます。キールスコア(図1)が2+以下の場合、ほぼ何らかの問題を抱えています。病院で診てもらいましょう。

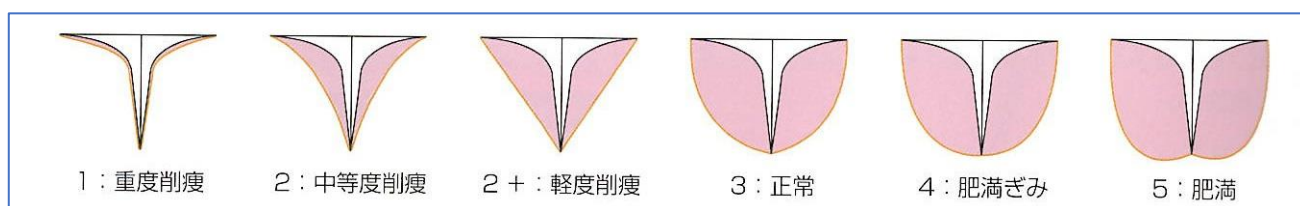


図1 胸筋のキールスコア

### (2) 腹部を触ろう。(図2)

- 鳥はお腹が大きくなる病気がたくさんあります。  
(肥満、黄色腫、ヘルニア、卵塞、卵蓄、腹水、嚢胞性卵巣、腫瘍など)
- 早期発見により治癒率が上がる病気もあります。また腹部の触診でメスの発情を把握することもできます。
- 卵に触れられるようになってから24時間たっても卵が出てこない場合、卵塞です。急いで病院へ！

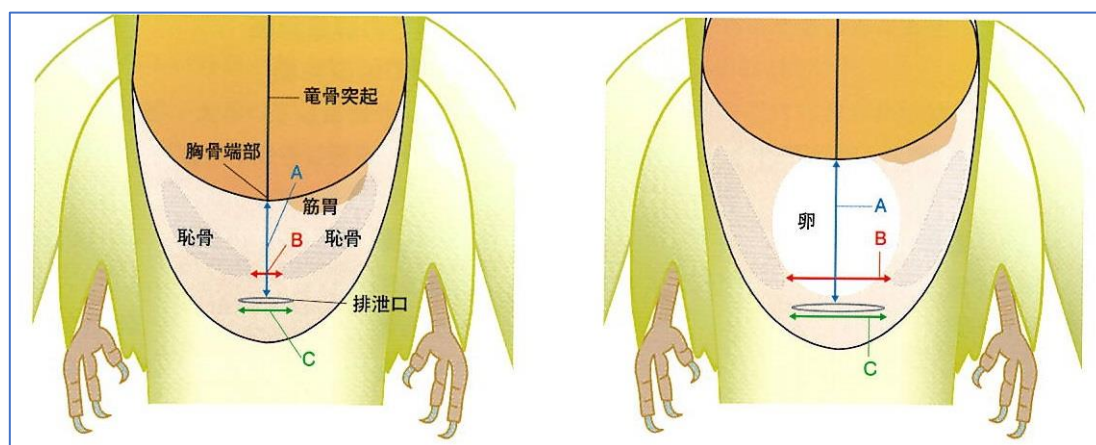


図2 腹部 メスは発情時、恥骨間(B)が開きます。発情したら卵塞を見逃さないために、毎日触診しましょう。

### (3) 体表腫瘍(できもの)をチェックしよう。

○鳥は腫瘍が非常にできやすい生き物です。とくに羽毛に隠れて見つけづらく腫瘍ができやすい部位は尾脂腺部、翼端部、腹部、頭部です。

○定期的に触ることで保定ストレスが強くなり、いざ病気がなった時の救命率が上がります。

## 排泄物の変化に気を付けよう。

### (1) 多尿と下痢を見分けよう。

鳥は尿と便を同時にするため、多尿と下痢がよく間違われます。

#### ① 多尿

○尿が多く便は筒状で形が崩れません。

○飲水量を量りましょう。飲水が体重の20%以上の場合には血液検査を検討しましょう。(健康な鳥でも多尿になることがあります。)

#### ② 下痢

○便形が崩れ、粘つきがあったり、臭いがあったりします。

○早めに動物病院に連れていきましょう！

### (2) 便の色をみよう。

○普段と違う色の便に気付いたら相談を。便の色を観察しやすいように着色料のない餌にしましょう。

### (3) 便の形をみよう。

○粒々が混ざる(筋胃の異常)などに気付いたら動物病院に相談しましょう！

### (4) 尿酸の色をみよう。

○正常な尿酸の色は白です。肝不全で黄や緑、溶血で黄や緑、赤になることがあります。緑や赤は危険！すぐ動物病院へ！

## よくある“異常な色の便”とその原因

○緑色下痢状 → 絶食など

○濃緑色 → 鉛中毒による溶血など

○黒色 → 胃出血など

○赤色 → 餌の色など

○白色 → 消化不良など

○血液の付着 → 消化管、生殖器、泌尿器からの出血など

## 外貌の変化、行動や動作にも注意しよう！

○いつもと違う様子に気付いたら早めに相談を！よくある異常を表1と表2に示しました。

羽
羽の軸に出血痕があり変形してきた、羽の色が変わってきた、質が悪くなってきたなど。
嘴
長すぎる、質が悪い、色が変わる、黒い斑点（血斑）がある、噛み合わせが悪いなど。
顔
雄のセキセイインコの口内が茶色くなってきた、目の周りが赤く腫れて濡れている、鼻の上が鼻汁で汚れている、耳の周りが濡れている、顔がベタベタ汚れている、嘴の周りがカサカサして軽石みたい、口角・口腔内がただれているなど。
脚
コブがある、皮膚が異常、色が悪い、ガリガリに痩せている、動きが悪い、挙げている、腫れているなど。
翼
コブがある、皮膚が異常（とくに裏側・脇）、動きが悪い、虫がいるなど。
おしり
傷がある、何か飛び出している!?など。

表1 外貌の異常

鳥の4大疾病徴候
羽を膨らませている（膨羽）、寝てばかりいる（傾眠、嗜眠）、食餌量が少ない、吐き戻しをしている（発情性吐出を除く）など。
呼吸器疾患の徴候
あくびが多い、くしゃみが多い、咳をしている、呼吸が苦しそう（開口、呼吸促迫、肩呼吸、チアノーゼ、星見様姿勢、受け口、ポピング）、呼吸に音が混ざるなど。
神経障害の徴候
首が傾く、趾を握りこむ、翼を震わせる、首を後ろに反らす、ガクガクする、つっぱる、ケイレンする、意識が低下する、起立できないなど。

表2 行動・動作の異常

## B. 病院での健康診断

### お迎え前の健康診断

- ① ワクチンが普及している犬猫と違って、飼鳥は致命的な病原体を隠し持っていることが多いです。  
○AGY、トリコモナス、オウム病、PBFD など。
- ② 上記の病原体を持っていると、特にお迎え直後に体調を崩しやすいです。  
○群れから離れ、環境が変化し、緊張により免疫が下がるため、病原体が一気に活動し始め発症します。
- ③ 発症する前に隠れている病原体を検査し、駆除してしまうことが推奨されます。
- ④ ペットショップにお願いして、お迎え前に動物病院での“お迎え前検診”を済ませておきましょう。  
○必要な検査項目は鳥の種類によって異なります。店員さんと主治医に相談してください。  
○検査は 100%の安全を保証するものではありません。また、検査後の感染も防ぐことが出来ません。

### お迎え後の健康診断

- ① “お迎え前検診”が済んでいない鳥は、お迎えしたその足での来院をお勧めします。
- ② “お迎え前検診”が済んでいても、検出漏れや検査後の感染を考慮して、定期的な再検査をお勧めします。  
○お家に慣れてからでも構いませんのでお早めに。

### 定期的な健康診断

- 自宅では発見できない病気が多々あります。
- 何度か検査しないと発見できない病原体もあります。
- 出来れば半年に 1回は病院での健康診断を実施しましょう。
- 小型鳥の健康診断項目は、視診、触診、検便、そ嚢検査が一般的です。

### 定期的な鳥ドック

- 一見、健康そうにみえても病気を隠し持っていたり、体の中で静かに進行していることがあります。
- 病気を発見するには、血液検査や X 線検査、病原体検査(PCR 検査、培養検査など)が必要です。
- 小型鳥の血液検査や X 線検査は、健康診断での実施はお勧めしていません。死亡を含めたリスクが存在するからです。
- 病原体検査は小型鳥でも安全に実施できます。



〒069-0813 北海道江別市野幌町 8-18

TEL : 011-375-6331